

サハリンの歴史

悲劇の歴史と「21世紀の宝庫」 —二つの顔を持つサハリン—

サハリン、旧「樺太」は、20世紀の100年の間に、帝政ロシアによる統治、南部「樺太」の帝国日本の統治、「社会主義」ソ連の統治、そして現在のロシアによる統治、異なる4つの社会体制による統治を経験しています。しかもそれぞれの時代に、多くの民族、人々が心ならずもサハリン、「樺太」への移住を余儀なくされてきました。帝政ロシア時代には「流刑地」として多くの囚人が流され、「樺太」時代には強制連行された朝鮮人や多くの日本人も移住させられました。さらにスターリンの時代にも、遠くチェチェンやクリミアからも少数民族が強制移住させられています。結果サハリンには、人口50万余の島に100を超える民族が住んでいるのです。深刻で悲劇的な歴史を持つサハリン。しかしその島がいま研究者たちの間では、大変注目されています。悲劇的な「歴史的多様性」が、いま複雑な「民族的多様性」をもたらし、それが逆に「21世紀の世界の

最重要課題である諸民族の平和と共生の課題解決への生きた教訓を提供する宝庫」として大いに注目されているのです。実際にサハリンを訪れた方々は、多くのスラブ、ヨーロッパ系の民族はもちろん、日本人、朝鮮人、そして少数民族、これらの人々が共存している姿を何度も見かけるでしょう。複雑な問題も持ちながら、スラブ系の女性と朝鮮系の男性が結婚式を挙げている姿や異なる民族の子供たちが仲良く遊んでいる光景も珍しくないでしょう。こうした人々と交流しながら、異なる民族、文化の共生、和解と共存を考えてみませんか。



お問合せ・申込

企画・実施 観光庁長官登録旅行業第1-49号 総合旅行業取扱管理者：坂田恒衛



(株)ユーラスツアーズ

〒106-0044 東京都港区東麻布1-26-8 イイダアネックス東麻布4F
Eメール tokyo@euras.co.jp Web http://www.euras.co.jp

東京都知事登録旅行業 第3-6101号 総合旅行業務取扱管理者：大西健一
受託販売 **(株)たびせん・つなぐ**

TEL:03-5562-3381
FAX:03-5562-3380

キリトリ

7月6日発 日本ユーラシア協会後援朴慶南さん同行 過去・現在・未来を見つめるサハリン7日間 **予約票**

全日程参加 稚内での現地集合・解散 7月7日から部分参加

フリガナ	生年月日	年 月 日	性別	男・女
氏名		(歳)		
ご住所	〒		電話 ()	-
			携帯番号	
E-MAIL (メールアドレス)				
国内連絡先	氏名:	続柄:	住所: 〒	
			電話 ()	-

○こちらにご記入していただいたお客様の個人情報は、当社から各種ご案内等を送る目的のみに使用し、他の目的で使用することはありません。



日本ユーラシア協会後援
強制連行の島から100の民族が
平和に共生する島へ

朴慶南さん同行

**過去・現在・未来を
見つめる
サハリン7日間**



**旅行日程
定員
旅行費用**

2011年7月6日(水)～7月12日(火)
35名様 (最低実施人数 25名様)

338,000円 ※羽田空港発着基準

*稚内集合・解散:259,000円

*2日目からの参加:249,000円

*一人部屋追加代金:45,000円

ロシア査証取得手数料:2,100円

稚内港ターミナル使用料:400円

その他費用

申込締切

2011年6月6日(金) 定員になり次第締切

添乗員

同行します

航空会社

全日空&ハートランドフェリー

利用予定ホテル

稚内:ドミーイン稚内
ユジノサハリンスク:ホテルメガパレス(デラックスホテル)

※当リーフレット掲載写真は全てイメージです。

朴慶南さんのメッセージ

サハリンには、決して見落としてはならない歴史があります。日本による植民地下、強制的に連れて行かれた朝鮮人たちは、戦後も帰郷を果たすことができませんでした。

そんな辛い歴史を越え、朝鮮人だけではなく、多くの少数民族が現在、サハリンの地でともに暮らしています。100以上にも上る民族が、和解と平和的な共存への道りを豊かに歩んでいる姿から、私たちは、進むべき未来への希望と、大いなる勇気を受けとることができるでしょう。

その地を訪れ、出会い、ふれ合うことによってこそ得られるものがあります。旅行費用が高い時期ですが、

花が咲くいちばん美しい夏のサハリンを、ご一緒できたうれしいです。きっと、心に深く刻まれる素晴らしい旅になるのではと思っています。

朴慶南(パク・キョンナム)プロフィール

1950年鳥取県生まれ。作家。命(人権)が大切にされる社会を目指し、日本と朝鮮半島のかけ橋に、そして世界中から戦争がなくなるようにという願いを原動力に活動。著書に『私以上でもなく、私以下でもない私』『ポッカリ月が出ましたら』『サラムとサラン~思いつながる』他、多数。



日 程 表

日本ユーラシア協会後援
 強制連行の島から100の民族が平和に共生する島へ
 朴慶南さん同行 過去・現在・未来を見つめるサハリン7日間

日次	月日(曜)	都 市	現地時間	交通機関	摘 要	宿泊地	食 事
①	7月6日 (水)	羽田空港 羽田空港発 稚内着	11:00 12:15 14:05	NH573 専用車	午前11時、羽田空港第2ターミナル2階2番時計台前集合 12時15分発、全日空573便にて稚内へ 稚内到着後、日本ユーラシア協会池田均副会長によるサハリン学習会 *現地に何度も足を運び、現地事情に精通するサハリン研究の第一人者 夕食：サハリンとの交流、交易をすすめる稚内市の方々との交流会 稚内		× タ
②	7月7日 (木)	稚内 コルサコフ ユジノサハリンスク	10:00 17:30	船 専用車	ハートランドフェリーにてコルサコフ(大泊へ)【所要5時間30分】 ※時差2時間、昼食は船内にて コルサコフ到着後、ロシア入国審査、税関申告 専用車でユジノサハリンスク(豊原)へ ユジノサハリンスク		朝 昼 夕
③	7月8日 (金)	ユジノサハリンスク	午前 午後	専用車	午前：ユジノサハリンスク(豊原)見学 (サハリン郷土史博物館、樺太神社跡、王子製紙豊原工場跡など) 午後：サハリン総合大学で研究者、学生たちとの懇談・交流(予) ユジノサハリンスク		朝 昼 夕
④	7月9日 (土)	ユジノサハリンスク コルサコフ アニワ湾 ホルムスク ユジノサハリンスク	午前 午後 夜	専用車	午前：ユジノサハリンスクから列車でコルサコフ、専用車でアニワ湾 天然ガスの積出港、鮭の大孵化場など見学 午後：昼食後、ホルムスク(真岡)へ 旧王子製紙真岡工場、「9人の乙女」慰霊碑など見学 夕刻：ホルムスクからユジノサハリンスクへ ユジノサハリンスク到着後、ホテルへ ユジノサハリンスク		朝 昼 夕
⑤	7月10日 (日)	ユジノサハリンスク	終日	専用車	終日：ユジノサハリンスクで残留日本人や朝鮮人の方々との懇談(予) ユジノサハリンスク		朝 昼 夕
⑥	7月11日 (月)	ユジノサハリンスク	終日	専用車	午前～午後：自由行動 夕刻：近郊の農家で家庭料理を楽しみながら、懇談した方々を招待し 大交流会 ユジノサハリンスク		朝 × 夕 タ
⑦	7月12日 (火)	ユジノサハリンスク コルサコフ 稚内港 稚内空港発 羽田空港着	10:00 13:30 15:05 17:00	専用車 フェリー 専用車	ユジノサハリンスクを出発、コルサコフ港からフェリーで稚内へ コルサコフ港発 稚内港着後、専用車で稚内空港へ 全日空の国内線で帰京の途に		朝 昼

※日程、訪問先、交通機関などは、現地事情により変更する場合がございます

訪 問 地 紹 介

ユジノサハリンスク

サハリン州の州都、ロシア語で南のサハリンを意味するように、島の南に開けたスナイスカヤ盆地(鈴谷平原)に位置、日本の統治時代は「豊原」と呼ばれた。人口20万弱、サハリン州全体の約30%を占める。帝政ロシア時代チャーホフが訪れ、1895年には『サハリン島』を著した。チャーホフ記念館には彼の胸像も立つ。日本統治時代の建物も多く、郷土史博物館は旧樺太庁博物館の建物をそのまま活用。サハリンの地形や自然と同時に、アイヌやニブヒなど少数民族の文化、流刑地時代から統治時代、そして現代までの歴史資料などを展示。

アニワ湾

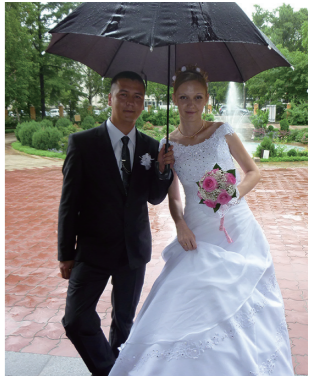
地名は「彼は渡りきった」を意味するアイヌ語に由来。ある若者が嵐の海を小舟で渡りきった勇気をたたえ、アニワ湾の名前が誕生。現在は日本の経済協力で大規模なサケの孵化場などがつくられている。

ホルムスク

日本時代の「真岡」。当時は王子製紙真岡工場があり、製紙産業が栄えていた。戦後もホルムスク製紙として操業を続けたが、老朽化の中で中止。いまは往時の面影をとどめるにすぎない。「9人の乙女」の舞台でもある。1945年8月20日、真岡に侵入したソ連軍の艦砲射撃で多くの市民が犠牲に。その際真岡郵便局の電話交換手の女性が、青酸カリで自殺。この慰霊碑はサハリンを望む稚内の公園にある。

100を超える民族の和解と平和共存への努力

帝政ロシア時代は流刑の島、日本時代には朝鮮人強制連行の島、スターリンの時代にも少数民族強制移住の島サハリン。いま100を超える民族が平和に共存し暮らす島へと変貌。朴慶南さん、ベテランの日本語ガイド同行で、強制連行の歴史と異なる民族の和解、平和共存への努力を多様に話し合い、見つめる旅



写真左 旧王子製紙跡 右 異民族同士の結婚

サハリン在住の多くの民族の方々と楽しく、豊かな交流

残留日本人、朝鮮人、スラブ系の方々や少数民族、サハリン大学の研究者や学生、そして農家への家庭訪問。サハリンの方々と多彩に交流、知らなかったサハリンが、温もりのある、人の顔が見える身近なサハリンに。往路、稚内にも1泊、サハリンとの交流に努力する北海道、稚内の方々と心温まる交流



夏真っ盛り、ベストシーズンに訪ねるゆったり、安心の旅

7月はサハリンの短い夏真っ盛り、夏の花も咲き誇る時期。お泊りはサハリン随一のデラックスホテルに5連泊。稚内からの往復は、揺れの少ない230人乗りの日系大型フェリー。

ゆったり、安心の7日間

